

第3学年 英語科学習指導案

日時 平成24年9月27日(木) 5校時

学級 3年A組(男子13名女子15名 計28名)

授業者 續石 真史

1 単元名 PROGRAM 5 Sushi-Go-Around in the World (SUNSHINE ENGLISH COURSE 3)

2 単元の目標

- ・自分で聞いたり調べたりしながら積極的に英文を書く。
- ・小グループで、大野を紹介するまとまった英文を書く。
- ・教科書の本文の概要を決められた時間内で把握する。
- ・各ページの本文の内容を正しく理解する。
- ・“call + ~(人など) + ... (名前)” の意味・形・用法を理解する。
- ・“make + ~(人など) + ... (形容詞)” の意味・形・用法を理解する。
- ・when + 主語 + 動詞などの間接疑問文の意味・形・用法を理解する。

3 単元について

(1) 教材観

この単元では題材として、回転寿司が取り上げられている。日本食ブームが世界で進む中、その先駆けとなった回転寿司は、世界の主要な都市、あるいは主要な空港で見かけられるようになった。しかしながら、日本の回転寿司がいつ頃、どのようなきっかけで始まったのか、日本食の人気の秘密がどこにあるのか、などはあまり知られていない。また、他の日本食と同様に、海外での回転寿司は、日本のものとずいぶん変わって現地化したものも見られる。本プログラムでは、「食」に関するテーマを中心に、食を通じた異文化理解を促進したり、さらに日本文化について英語で世界に発信したりできるようにすることをねらっている。

新出文型としては、SVOC「call + ~(人など) + ... (名前)」「make + ~(人など) + ... (名前)」や、間接疑問詞「when など+主語+動詞」を扱う。call や make を使った表現は、見てすぐに分からないものや、それがどんなものであるかを人に紹介するときに使える表現である。自分たちの住む大野を、それらの表現を使ってまとまった英文を書いて紹介するパンフレットを作ることをゴールに設定し、書く力をつけさせることを目指して指導していきたい。

(2) 生徒観

落ち着いた雰囲気での学習に取り組める学級で、積極的な反応は多くはないが、真面目に話を聞き、音読や英語を使う活動に意欲的に取り組む生徒が多くみられる。昨年度の学習定着度状況調査の結果から、「与えられた I want to で始まる文を書くことができる」、「自分が行ってみたい国内の場所についてその理由や説明などを含めて、3文以上で内容につながりを書くことができる」の項目で、特に落ち込みがみられた。本単元での大野のことを伝えるまとまった英文を考える活動等でも困難が予想される。そこで、小グループで活動に取り組み、教え合い、意見を交流し合いながら、何とか協力して英文を完成させることで、生徒たちにみんなで学習すればわかる、楽しい、できる、という達成

	習		たり書いたりすることができる。		できる。
			後日ペーパーテスト		後日ペーパーテスト
4	回転寿司の起源や特徴について読み取る			本文のあらすじや大切な部分などを読み取ることができる。	
				ワークシート	
5	新出文型、間接疑問文 when など+主語+動詞の理解と運用		新出文型、間接疑問文 when など+主語+動詞を使って英文を書いたり話したりできる。		間接疑問文“when など+主語+動詞を理解し、人に説明できる。
			後日ペーパーテスト		後日ペーパーテスト
6	世界の日本食ブームの背景について、正しく読み取る。			語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を正しく読み取ることができる。	
				ワークシート	
7	大野を紹介するパンフレット作りのための調べ学習	分からない所を調べたり聞いたりしながら積極的に調べている。			
		活動の観察			
8	大野を紹介するパンフレットを書く	分からなところを調べたり聞いたりしながら積極的に英文を書こうとしている。	大野を紹介するまとまった英文を書くことができる。		
		活動の観察	作品の評価		
9	書いたパンフレットの内容の発表		聞き手を意識して、強調したり繰り返したりして話すことができる。		
			発表チェック		

10	単元テスト		場面を与えて適切な表現を書くことができる。	150語程度の英文を3分以内で内容を読み取ることができる。	call A B, make A B, 間接疑問文の問題に正しく答えることができる。
----	-------	--	-----------------------	-------------------------------	--

5 本時について

(1) 本時の目標

小グループで協力して大野を紹介する英語のパンフレットを作ろう。

(2) 本時の評価規準

- ・わからない所を調べたり聞いたりしながら積極的に英文を書いている。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・大野を紹介するまとまった英文を書くことができる。【外国語表現の能力】

(3) 本時の指導構想

①学び合いについて

本単元では、call + ~(人など) + ...(名前)、make + ~(人など) + ...(形容詞)、間接疑問文を学習した。それらの文法事項を使い、身近な大野のことを紹介するパンフレットを作らせる。4人1組の小グループでの活動とし、お互いの意見の学び合いの場とする。小グループで協力活動することで英語が苦手な生徒たちも授業に参加させ、教えてもらいながらすすめることで「できた」「わかった」という思いを授業で実感させたい。また、英語が苦手な生徒の中にも、調べるのが得意な生徒、大野のことについてよく知っている生徒が積極的に活動に参加することを期待する。小グループの編成は、できる生徒ができない生徒からも学ぶことができるよう、工夫して設定したい。

②振り返りについて

授業の最後には、何を学んだか、どう感じたか、これからどうするかを振り返らせ、分かったこと、できたことなどを生徒たちに実感させ、次の意欲につなげたい。また、授業の最後に、次の時間の課題を小グループで書いたパンフレットの英文の発表であることを確認し、「これからどうするか」には「発表をしっかりとできるように、何度も練習してくる」などの答えを期待する。

6 本時の展開

段階	過程	学習活動	指導上の留意点	
			評価[方法]【観点】	学び合いを通して、 ねらいにせまる手だて
導入 7分	帯活動	1 あいさつ 2 Warm-up keyword game キーワードの単語を読んだら消しゴムをつかむ活動で、ウォームアップを兼ねて新出語句の読みを覚える。		<ul style="list-style-type: none"> これから学ぼうとする意欲づけをする
	課題把握	3 本時の学習内容と目標確認 本時の目標を確認する。		
Goal:小グループで協力して大野を紹介するパンフレットを作ろう				
展開 40分	課題確認	4 モデル文の概要把握 ALT が話した英文を紹介のモデル文とし、何がどんな情報が書かれているか読み取る。	<p>わからない所を調べたり聞いたりしながら積極的に英文を書いている。[活動の観察]【意・関・態】大野を紹介するまとまった英文を書くことができる。[作品の評価]【外国語表現】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが英文を書くために、どんな順番で英文が話されているかを考えさせる。 4人小グループ 机間指導を行い、つまづいているところを支援する。 教師のチェックを受けた後に、4人小グループで発表練習をする。
	課題追究	5 小グループで大野を紹介するパンフレットを作る。		
	学び合い	6 発表練習 4人1組の小グループで発表練習をする。		
まとめ 3分	振り返り	7 課題提示と次回予告 次回までの課題と次回の予告をする。 8 自己評価 ワークシートで自己評価をする。 ①何を学んだか ②どう感じたか ③これからどうするか 9 あいさつ 終わりのあいさつをする。		<ul style="list-style-type: none"> 振り返り ワークシートに記入 3段階で記述する。